

「たわなに実れよわれらの結び おのおの交わせ互いの誠」 母校の新校舎建築に、今こそ同窓生は熱いご支援を

校舎建替 寄付金募集要項

本寄付金募集は、白陵会が白陵会員を対象として行います。

目標額 5千万円

募 金 1口1万円

なるべく複数口のご協力をお願いします。ただし、1口未満でもありがたくお受けします。

募集期間 平成18年10月1日～平成20年9月30日(2年間)

申込方法 同封の郵便払込取扱票によりお払い込みください。

口座番号：神戸01160-9-45040 加入者名：白陵同窓会

※領収書は郵便局の郵便払込金受領書をもってかえさせていただきますのでご了承ください。

※この寄付金は減免税の措置を受けることができます。

個人がその年に支出した寄付金の額が5万円を超える場合には、その超えた金額について、その年の課税所得金額から控除されます。但し、寄付金額が年間所得の40%を上回る場合は40%が限度となります。

寄付金控除額=寄付金額-5万円

減税措置を受ける手続きは寄付された翌年の確定申告で行いますが、その際、領収書及び特定公益増進法人であることの証明書(写)が必要です。この証明書写が必要な方は郵便局払込取扱票の通信欄に証明書必要とお書き添えください。

校舎建替寄付金募集のお願い



会長
沼田 好道

初秋の候、いよいよご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、同窓会活動に格別のお力添えを賜り、心より厚く御礼申し上げます。

今年には学園創設者故三木省吾先生の二十五回忌にあたり、七月十五日のご命日には多くの卒業生がお参りされ、本会からも心ばかりのお供えを届けさせていただきました。

さて、既にご高承のとおり、母校の校舎建替工事は順調に進み、今春、第一校舎が完成しその勇姿を現しております。(詳細は本会報特集頁をご覧ください)

旧校舎は大変思い出深い建物でありましたが、手狭で且つ建築後四十数年を経過し老朽化が進んでいることから、学園では現状と今後の経済情勢の見通し等を勘案して慎重に検討を重ねられた結果、耐震安全性を確保するうえで校舎の新築建替に緊急かつ優先的に取り組むという英断を下されました。言うまでもなく校舎の建替は多額の資金を要する大事業であり、この大事業を推進するには約二十

億円という巨額の事業費が必要となります。苦しい財政事情の中で経営努力を続けてこられた学園当局におかれましてはその費用の負担が重くのしかかってまいります。そこで、同窓会としましては理事會、役員會で協議の結果、母校の更なる飛躍とより健全な発展を願う気持ちを集約して、積極的にその一翼を担うべく昨年より会員の皆様にご寄付のお願いを行ってまいりました。

その結果、数多くの方々から熱いご支援と貴重なご寄付を頂戴することができましたが、全体の応募状況は、本年七月末現在で、応募者二六〇名、応募金額六二六万円という非常に厳しい状況でございます。今こそ、各界でご活躍されている全卒業生のお一人おひとりから力強いご支援を頂戴して、母校支援の輪を大きく広げていきたいとお願いいたします。会員の皆様には、幾度にもわたり誠に恐縮に存じますが、まだ本寄付金にお申し込みでない方は、事情ご賢察の上更なるご理解とご賛同をいたさたく、ご協力を賜りますようお願いいたします。なお、既にご芳志をいただいております方にも失礼ながら本会報をお届けしております点、なにとぞご容赦ご寛容くださいますようお願いいたします。



理事長
三木 一正

創設者の 二十五回忌に想う

あれから二十五年が経ちました。七月十五日。それは何の予告もなく突然やってきたのです。学園創設者三木省吾先生の死は余りにも唐突で後に残る者たちにとつて残酷ですらありました。二十年間大黒柱として頼りきっていた私たちとしては、試練のそれはまさしく次への出発点だったのです。「白陵を巣立っていった若者たちを母校のない卒業生にしてはならない」それを合言葉に私たちの日々は「甘えの構造から自立への闘い」へと変わっていったのです。

今夏の全国高校野球兵庫県大会皮肉なこと初戦の組合せは昨年と同じ灘高校との対戦となり、加えてその日が学園創設者三木省吾先生の命日とあつては「負けてはならじ」と野球部の先生方が頭を痛めるなか、野球部OB会による壮行会、バス3台での応援団と準備万端整え、雨で順延になった翌日、何と昨年に続いてコールド勝ち、その上応援賞まで受賞という快挙（？）を成しとげたのです。

二十五回忌にあたる命日には例年より少しばかり威儀を正した幹部職員がお宅を訪問、お詣りさ

せていただきました。その際奥様からデザートとして出された西瓜の美味しかったこと。聞いてみると毎年お詣りしてくれる白陵二期生の女性がお供えとして持つて来てくれた手作りの品と聞き、四十五年前の生徒が創設者没後いままなこうして心をこめて足を運んでいると知った時、私の脳裡をかすめたのは学校における子弟のあり方でした。一般的に故学園長は豪放磊落、怖い先生として通っています。が、それでいてとても繊細な神経の持ち主でした。学校発足当時はその真意が分からず随分とアンチ白陵生の多い時代でしたが、その中で命日には必ず足を運んでくる中で教え子の存在に、師弟間に交わあう心の繋がりが、絆の強さを思わすにはいられないのです。白陵教育の基本は何といつても人間としての心です。創設者没後四半世紀、改めてその建学の精神をかみしめているところです。

同窓会を通じて皆さん方のご協力をえて、建て替え中の新校舎（第一期工事）が完成し、いま第二期工事が進行中です。来年の今頃には完全に出来上がっていますが、いつでも一度母校白陵を訪ねてみてください。「人間創りの緑の中の進学校」として卒業生の皆さんを心から歓迎することでしょう。

最後になりましたが、卒業生諸兄姉の更なるご健勝とご活躍を祈念するとともに、変わらぬご支援ご鞭撻の程お願い申し上げます。ご挨拶といたします。



校長
吉田 卓

油断大敵

梅雨明けの報せを待ち兼ねたように、蝉の大合唱が白陵恒例の夏の補習を妨害しようとしています。ところが今年は全く異なった様相を呈しています。防犯とUVカットの機能をそなえた新校舎の合わせガラスは防音効果も大きく、教室内の静かさは十分に保たれているのです。また、教室南側につくられたバルコニーのお陰で直射日光が射し込むこともなく、教室内は適温に保たれています。

流れる汗を拭いつつ、蝉の声の中から先生の声を聞き取ろうとした同窓会員の皆さんの夏の補習体験からは、別世界のような学習環境が整備されました。校舎全体のイメージは旧校舎のものを伝統として残しながら、各所に斬新なアイデアを盛り込むことによつて素晴らしい空間が完成しました。中部棟建築のための二期工事も基礎工事から二階のフロアへと順調に進んでおります。

同窓会員の皆様のご支援に対して心から御礼申し上げますとともに、今後とも、一層のご協力をお願い申し上げます。

ところで、大きな事を計画・実行するにあつての心構えとして「事いまだ成らず小心翼翼、事まさに成らんとす大胆不敵、事すでに成る油断大敵」とあります。これは、明治維新の一方の功労者である勝海舟が常に心掛けていたことです。白陵の校舎新築の事業も、まさにこのプロセスを経て今に至っています。二期工事の最中では、教員、校舎での生活が始まった今、教員生徒ともども「事すでに成る油断大敵」の精神を忘れないよう注意したいと思つています。

国道2号線からや列車から見える新しい校舎は、ひとまわりもふたまわりも大きく見えます。白陵精神をさらに発展させ次世代へ伝えるための道場として、大きく変わった新しい校舎の隅々にまで活気とエネルギーを充滿させ続けることが、私達のこれからの大きな仕事であると考えています。同窓会員の皆様には今まで以上の「指導」ご支援をお願いいたします。

平成十九年度は、本校一期生の諸兄・諸姉が還暦を迎えます。本当に、おめでとつございます。人生の先達としての皆様のご指導を、ご活躍から、多くの事を学ばせていただきます。学校運営に生かして行きたいと思つています。新しいスタートラインに立った一期生の皆様はじめ、全ての同窓会員の皆様が、お健やかに、益々ご発展の年となりますようお祈り申し上げます。

新第一校舎紹介

—新校舎へ行ってきました—

本紙編集部

阪神・淡路大震災以来、既設校舎の耐震補強が求められ、第一校舎（高校棟）、第二校舎（中学棟）が築後四十数年経過して老朽化が進んでいることから、耐震安全性を確保するうえでの再整備が緊急課題となり、耐震補強工事では教室、廊下が狭く暗くなり、校舎として使用が困難となることから、既存校舎を取り壊して校舎の全面建替という英断を下されました。

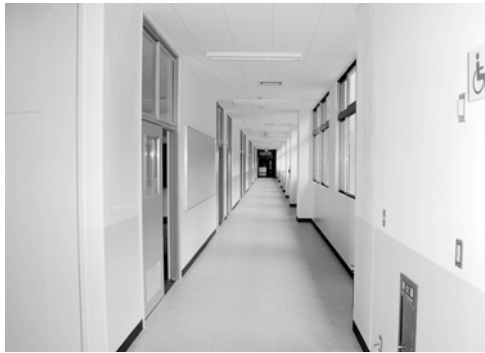
平成十九年三月二十八日、在校生並びに教職員、学校関係者の方々が待ちに待った新校舎建替第二期工事の第一校舎が完成しました。校舎の設計の際に、「伝統を守りつつ勢いのある建物」にしてほしいとの学校側の考えが取り入れられた建物となりました。校舎のシンボルである時計塔も新しくなりまし。鉄筋コンクリート造五階建二部



第一校舎全景

四階建で、校舎を遠くから見た時、懐かしの校舎とあまり変わらない印象を持たれると思います。しかし、実際に近くで見ると学校の校舎とは思えない迫力があります。校舎内は旧校舎に比べて明るく教室も広くなったことから、最適な学習環境が整備されました。以前廊下に鞆棚が置かれていて、休み時間には生徒が二斉に教室から廊下に

出ると、廊下の行き来が大変混雑しましたが、その鞆棚も教室内に設置されたため、ゆったりとした空間ができました。また、二丁五階の各部屋の外にはバルコニーがあり、休憩時間に景色を眺め気持ち切り替えるなど絶好の場所となっています。



廊下

さて、新校舎の大きな特徴として、「バリアフリー構造」が取り入れられています。先ず昇降口前の階段横にスロープが設けられ校舎内にはエレベーターが設置されています。生徒は通常、階段を使うようになっていますが、歩行困難な場合にスロープ、エレベーター利用で大変楽に移動できるようになりました。



エレベーター

普通教室が一丁四階に割り振られています。特別教室として二階に美術教室があります。ここには以前教室内になかった洗い場が



バルコニー

取り付けられ、美術道具の水洗いが便利になっただけでなく、机の間も大変広くなって作業がしやすくなったようです。三階のIT教室は情報の授業だけでなく、他教科やLHR等にも幅広く利用されるなど、フル活用されています。



IT教室



大教室

れ変わった母校に是非足を運んでいただきたいと思えます。

第二期工事(第二校舎)

鉄筋コンクリート造四階建

建物面積二、八八三㎡

大教室は以前から模擬試験会場、大人数の授業等で利用されていましたが、視聴覚機器が設置されたため、映像、音声を利用した授業をはじめ、集会、講演会等にも利用しやすくなり、毎日多くの先生や生徒が使用しています。

特別教室以外にも職員会議、役員会等を行う会議室、そして前庭集会にも対応できるよう一階には放送室があります。また時計塔階段部分には思い出深い旧第一校舎にはめ込まれていたブロックガラスを移して装飾に使うなど工夫がなされています。新しい校舎に生ま

第一期工事後、第二期工事として四月から始まった旧第二校舎の解体工事も終わり、現在、基礎から二階部分へのコンクリート打ちが行われています。来年三月の第二校舎完成時には、第二校舎と第二校舎の廊下が一直線につながります。また現在使用している生徒昇降口の位置がちょうど校舎中央部になるため、各教室への移動もスムーズになります。

校舎建替現場より

事務室 勝山悦成

校舎新築建替工事は学校関係者にとって開校以来の大事業で、特に施設管理をする事務室は、工事前から竣工までの間に様々な業務に携わることになりました。特に事務の営繕担当者は新校舎の設計段階では、打ち合わせと並行して、仮設のプレハブ教室の設営や旧校舎解体に備えて備品や荷物を記念棟や寮の空き室に移す調整に追われ、それを移動するだけでも「仕事でした」。

校舎解体工事が始まると、現場の隣で授業を行っている生徒の安全確保に努めると共に、騒音による授業への影響を最小限に抑えるなど、工事の進捗状況に応じて、各方面との調整に鋭意当たりましたが、一番大変だったことは、工事中も毎日使用する電気、水道、防災設備の切替えが複雑で、仮設工事、本工事と何度も行う中で、作業中に突発的トラブルが発生するなど、休日だけでなく夜遅くまで工事関係者と対応に追われたことでしょうか。新築工事が進むにつれて、新校舎に設置する備品の手配

等、限られた予算の中で何をどこにどのくらい購入するかと検討することにかなりの時間を割きました。また、このたびの校舎建替の一大プロジェクトは、地鎮祭に大相撲井筒部屋より関取・鶴竜関を招き力強い四股を踏んでの地固めから始まりましたが、「こだわりと広がり」をモットーとされている三木正理事長は、設計・建築業者との協議や内装の選定においても、その都度、納得いくまで入念な打合せを重ねられました。これらのことは、今までに経験したことがないことだっただけに、三月二十八日の竣工式を迎えられたことは何よりの喜びであり、今までの努力の結晶が新校舎誕生という形であらわれたと思えます。

お陰様で現在第二期工事が順調に進んでいます。校舎新築建替という大事業が滞りなく完了できるようなこれからも精一杯頑張りたいと思います。引き続きよろしくご支援たまわりますようお願い申し上げます。

新校舎感想

全校生徒委員会 議長
高2年 宮野 修平

工事が終わり、フェンスが取り除かれた去年の三月。初めて新しい校舎を見た時の感動は、今も良く覚えています。まず目に付くのは、真っ白な校舎に、ギリシャの神殿を思

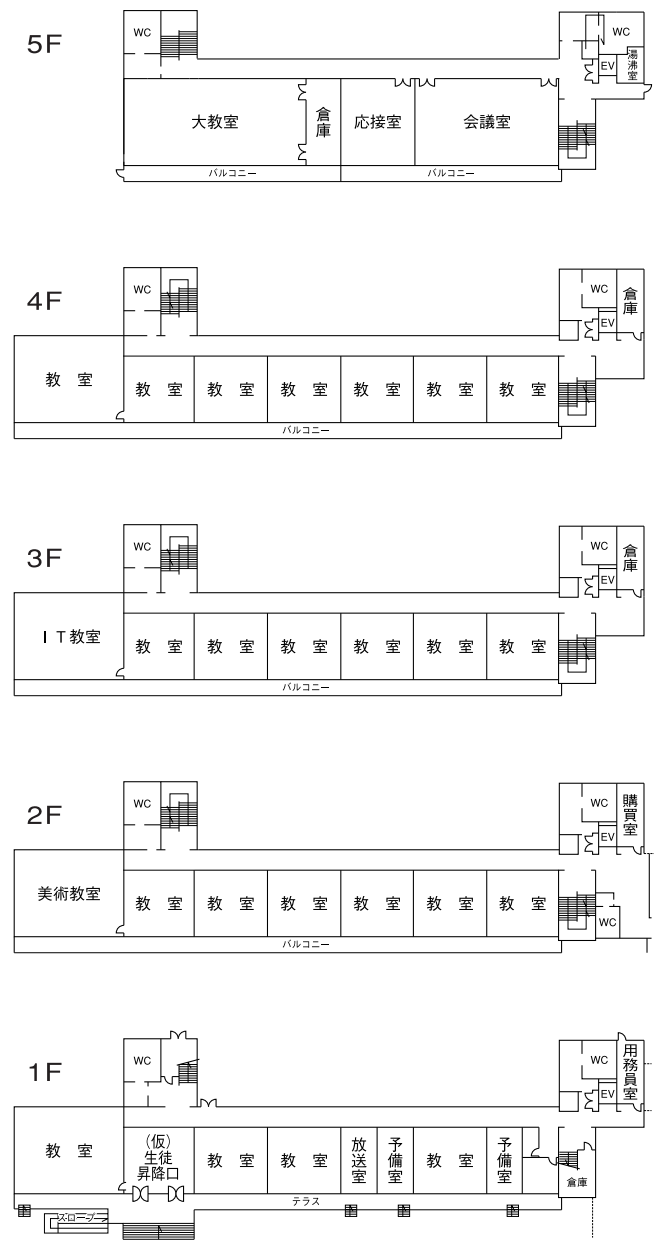
わせる装飾。上に目を移すと、ベランダができていて、なんと外に出られる様子。しばらくの間、校舎のあまりの進化に驚愕するばかりでした。そして新年度になり、いよいよ本格的にこの校舎を使うことになってからも、何度も驚かされました。建てたばかりなので当たり前ですが、廊下も階段もやはり綺麗です。教室のフロアリングはびかびかで、

自分の顔が映ります。ベランダに出ると爽やかな風を感じることができ、トイレは洗浄も手洗いも自動化されています。あちこちが真新しく、また便利になっていました。ところで、去年の白陵祭のテーマは「新風」でした。今年のテーマは「SHINKA」です。どちらも「新しい」というニュアンスをもっています。白陵は、その長い伝統の上に、「新しい」歴史を築いていこうと

している。校舎の建て替えは、まさにその象徴であるように思います。新しい校舎を使い始めて、五ヶ月が経ちました。もう勝手に慣れ、戸惑うこともないのですが、こんな風に春の頃を回想すると、校舎の進化を改めて実感します。自分が在学している間に、この新しい環境で、新鮮な気持ちで勉強できるのは、とても幸運だったと思います。

校舎平面図

(第一校舎) 建物面積 4858.3m²



平成19年 大学入試合格者数

国公立大学				
大学名	16年	17年	18年	19年
東 京 大	32	21	24	24
京 都 大	24	14	22	18
大 阪 大	28	14	8	12
神 戸 大	21	21	14	15
北 海 道 大	6	4	5	5
東 北 大	2	1		
一 橋 大	5	4	6	8
筑 波 大	1	2	1	2
横 浜 国 立 大	2		5	3
名 古 屋 大	2	2		1
岡 山 大	18	7	4	7
広 島 大	2	4	1	3
九 州 大	1			1
大 阪 市 立 大	4		3	4
大 阪 府 立 大	9	4	6	3
そ の 他	61	48	46	58
合 格 者 計 (内医学部医学科)	218 (42)	146 (37)	145 (32)	164 (40)

私立大学				
大学名	16年	17年	18年	19年
早 稲 田 大	33	22	21	31
慶 應 義 塾 大	42	21	13	25
上 智 大	1	1	1	2
中 央 大	16	8	7	7
東 京 理 科 大	9	4	13	8
関 西 学 院 大	30	23	27	19
関 西 大	16	9	15	5
同 志 社 大	23	12	20	30
立 命 館 大	38	27	34	31
近 畿 大	4	2	7	7
大 阪 医 科 大	2	3	4	4
兵 庫 医 科 大	2	3	7	3
京 都 薬 科 大	2	4	6	3
神 戸 薬 科 大	6	10	7	9
そ の 他	48	47	54	41
合 格 者 計 (内医学部医学科)	272 (10)	196 (18)	236 (23)	225 (11)
卒 業 生 数	184	176	174	171

寄稿「教頭日記」

川副義文(2期生)

6月1日(金) 本日より教育実習生4名を迎える。昨年は13名の実習生があったが、景気の上昇と団塊の世代の定年等で企業就職の門が広いせいか、かなりの減少。しかし本校に実習に来るからには一応教員免許を修得しておこうという安易な気持ちで来て欲しくない。授業を大切にという本校の信条を理解し研修に励んで欲しいものだ。15時に旅行社より法人45周年の岡山白陵との合同職員旅行の企画書が届く。先方の教頭と連絡を取りながら段取りの検討。

6月16日(土) 高校修学旅行の出発日。関西空港で8時15分に出発式という事で5時30分自宅から車で見送りに行く。土曜日で道路が空いていたので7時20分に関西空港に着く。今まで何回か見送りに来ているが、いつも時間に遅れる者、だらしない服装や髪型の者がいて残念な思いを懐く事が多いが、今年はそういう生徒を見かけず落ち着いた雰囲気集合しているのを見て嬉しく思う。一限の授業を四限に変更した為、旅行団が出発ゲートへ向かうのを見送り、すぐ学校へ帰り授業。午後、6月22日からの市内中体連の各学年の参加生徒の状況を調査。各学年の当日の授業予定の確認。次にこの期間に予定されているE塾の見学会のタイムテーブルを企画。その後、中学生の登校時の列車内マナーに関して問題が生じたという事で当該学年の担任・中学部長・生徒部長で事情聴取及びその対応を検討。とりあえず、当該生徒達を説諭。16時30分頃クラブ活動へ向かうも練習は終了直前。今日はゆっくりクラブ活動を指導できると思っていたので残念。ストレスの残る多忙な一日であった。

7月5日(木) 本日は研修日。昨日で満59歳を迎える。つくづく思うが、この小さい身体で37年間、よく体育教師を続けてこれたと我ながら感心する。しかし今年度にはいり左右の膝痛と座

骨神経痛に悩まされ体育の指導にや支障を来す様になってきた。長年のダメージの蓄積と生活環境の変化のせいかな。何とか来年の還暦までは実技指導の出来る体育教師で在りたいと願っている。

午後から買い物に行く。誕生日祝いに女房がや高価な作業衣を買ってくれた。お返しが高くつきそうだ。夜、次回の部長会議・職員会議の議題の検討。明日から8月24日から3日間開催される「兵庫の私学展」の計画も推めなければと思うと気が重くなる。

7月14日(土) 期末考査最終日に台風4号接近。朝から激しい雨。とりあえずテスト終了後全員すぐ下校させる。15時頃帰宅。今日は前から計画していた大学の同窓会をやる予定。一緒に幹事をしているS校のE君に予定どおり開催の確認をとり神戸に向かう。四国方面からの参加者もいるので台風の影響が気懸り。実は今年の3月17日にも、同所で37年ぶりの同窓会を開き、同窓生30名中、20名が遠く鹿児島や東京から集まり、20歳の青春に戻った様な楽しい時を過ごしたのだが、その時、仕事の都合で参加できなかった数名が近々もう一度やって欲しいとの要望で今回の運びとなった。幸い参加予定の10名が全員集合し皆で近況報告等を話しながら嵐の中、楽しい昔話で盛り上がった。その時、愛知県で教員をしているY君が「おまえは教頭という激務のポジションにいながら、顔に暗さや疲れを感じさせない。大したもんだ」と言われた。自分では人並みに教頭としての仕事をこなしていると思っているが、校長をはじめ周囲の教職員の協力と理解が有るから自分のストレスを半減されているのだろうと感謝の気持ちを素直に感じるとともに周囲に甘えすぎないようにと自戒。

白陵会ホームページを、フルモデルチェンジしました!

Let's Access!!

新しいURLは、<http://www.hakuryokai.jp> です。

～これまでのURLからも、ジャンプできます。～

<主な新規追加・変更項目>

1.会報「AlmaMater白陵」

第1号からの会報バックナンバーが、閲覧できます。

2.クラブ活動ニュース

現役生の成績報告や、OB会開催の掲示板等にご利用下さい。希望するクラブ毎に、専用ページを提供します。

3.総会・同期会等の案内・報告

写真も、簡単にアップできるようになりました

4.同窓生のホームページ

会社・お店・個人と、いずれでも結構ですので、ご自分のホームページをリンクを張って、PRして下さい。

詳細は、まずホームページをご覧ください。

※ 書き込みや写真のアップに「登録は不要」となり、操作しやすくなりました。

お問い合わせ : 白陵会ホームページ委員会 info@hakuryokai.jp

白陵会役員名簿

役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名
会長	3	沼田好道	常任幹事(総務)	14	竹中邦夫	常任幹事(総務)	37	伊賀真紀子
副会長	2	湖中明憲	"(総務)	16	田中正一	"(HP)	37	亀山信生
"	3	天野泰文	"(総務)	18	秋田直樹	"(総務)	38	上野紘之
"	6	上田喜裕	"(総務)	19	牛尾英樹	"(総務)	38	掘素史
理事(研レ委員長)	3	神吉裕資	"(総務)	21	河合恵介	"(総務)	39	猪股久美子
"(研レ副委員長)	4	森崎晴知	"(総務)	22	新田智弘	"(総務)	39	根木厚
"(研レ)	5	橋本義仁	"(総務)	22	野津康弘	"(総務)	40	赤澤剛
"(総務)	9	村角伸一	"(広報)	23	三木健史	"(総務)	40	山本祥子
"(総務)	10	吉田達哉	"(総務)	23	中里寛	"(総務)	41	山本梨加
"(広報委員長)	10	下村康夫	"(総務)	24	奥本光廣	"(総務)	41	脇田直人
"(広報副委員長)	11	志方正彦	"(総務)	24	藤原省悟	"(総務)	42	賀川拓哉
"(校内幹事総)	11	宮崎陽太郎	"(総務)	25	多根正明	"(HP)	42	宮崎はる香
"(HP委員長)	19	尾上尚樹	"(HP)	26	大西康記	校内幹事(広報)	1	芳木健憲
"(総務)	20	石井秀武	"(総務)	27	山田将義	"(総務)	2	大内義博
"(会計)	10	加藤雅宣	"(総務)	28	柿本晴彦	"(総務)	3	長濱憲雄
書記(HP)	17	岡野清和	"(総務)	28	松本守弘	"(総務)	3	黒田洋
会計監査(研レ)	6	大崎章快	"(HP)	29	岡田康裕	"(総務)	4	原田正和
"(広報)	15	町田直隆	"(総務)	29	浜田賢太郎	"(総務)	6	福井孝昌
常任幹事(広報)	1	伊藤達也	"(総務)	30	上新貴弘	"(総務)	11	小紫一貴
"(総務)	1	芝本真須美	"(総務)	31	酒井雅史	"(総務)	12	畔上昇
"(総務)	1	武田久美子	"(総務)	31	木下智晴	"(総務)	12	山口透
"(総務)	1	正井和野	"(総務)	31	村山稔	"(総務)	12	中村大吾
"(総務)	4	岸本和男	"(総務)	32	酒井勇人	"(総務)	14	久保博彦
"(総務)	5	塩崎育男	"(総務)	32	小澤有紀子	"(総務)	15	村上幸生
"(総務)	7	萩本義郎	"(総務)	33	藤井拓郎	"(広報)	15	西善弘
"(総務)	8	山戸敏彦	"(総務)	33	北尾由美子	顧問(理事長)		三木一正
"(総務)	8	黒川仁	"(総務)	34	八尾晋典	顧問(校長)		吉田卓
"(総務)	9	鄭幸男	"(総務)	34	牧野琢丸	顧問(副校長)		斎藤興哉
"(研レ)	12	吉野太司	"(総務)	35	石川美帆	顧問(教頭)	2	川副義文
"(総務)	13	水田堅	"(総務)	35	阪本覚	"(前会長)	1	遠山寛
"(広報)	13	矢野善人	"(HP)	36	内田理恵	"(前会長)	1	黒坂康夫
"(総務)	14	片山安孝	"(HP)	36	杉岡央基	"(前会長)	1	黒川芳一

白陵軍団全員集合(15)

～ 陵医会のお知らせ ～



白陵高等学校の四十四年の歴史の中で、本校は実に多くの医師を輩出してきました。その数は昨年までに四〇〇名を越えており、現在も日本全国で活躍しておられます。もちろん、本校のある兵庫県にも多くの医師が病院や診療所で日夜医療に取り組んでいます。本校には様々な形での同窓会がありますが、県下で活躍中の同窓生の医師だけでも数百名に上ることから、明石市と神戸市西区の有志が、数年前から主に県下を中心とした医師の会『陵医会』を立ち上げることを企画してきました【小山賀己(7期生)、戸田和夫(15期生)、平井昭博(19期生)、譜久山剛(21期生)】。

まず平成十七年に、準備会として同窓会長である沼田好道先生(3期生/歯学博士)と現在の本校校長である吉田卓先生をお招きし、ご講演を頂き、『陵医会』の立ち上げを宣言しました。そして本会の初代会長として、小山賀己先生が選出されました。

続いて十八年七月に第二回陵医会総会が開催され、全国からおよそ三十名の同窓生が集まり、真星病院糖尿病センター長・上田容生先生(14期生)、および、明石市長・

北口寛人氏(19期生)の講演を拝聴しました。出席者の中には奄美大島から来られた先生もおられました。

本年第二回総会を七月二十八日(土)に開催いたしました。今回は、鳥取大学医学部講師・前田直人先生(14期生)からC型肝炎治療などについての最新の情報を、および兵庫県健康生活部総務課長・山元嘉彦氏から医療問題の最近の動向などについて、ご講演を頂きました。本校からも大森茂樹先生をお招きし、最近の本校の状況についての話を伺いました(この原稿を書いている時点では、全てが予定でしたが)。

今後も、毎年七月の最終土曜日を目標に、陵医会総会を開催していく予定です。なお、現在、医学生の方も歓迎いたしますので、数多くの同窓生が参加いただけますことを願っております。

陵医会に関するお問い合わせ

小山クリニック 小山賀己(7期)

電話 078-1944-10356

FAX 078-1944-10358

(戸田和夫)

白陵会News

平成18年度 収支決算報告書

平成18年4月1日～平成19年3月31日 単位/円

収入の部	予算額	決算額	差異
前年度繰越金	14,740,936	14,740,936	0
会費収入	2,580,000	2,565,000	15,000
終身会費	2,580,000	2,565,000	15,000
臨時会費	0	0	0
総会費	0	0	0
会費外収入	1,000	5,528,255	△5,527,255
名簿収入	0	15,200	△15,200
広告収入	0	0	0
利息収入	1,000	8,055	△7,055
雑収入	0	0	0
寄付金	0	5,505,000	△5,505,000
総会積立金繰入収入	0	0	0
合計	17,321,936	22,834,191	△5,512,255

平成18年度 会務報告

年月日	内容	年月日	内容
18.5.24	理事会	18.9.28	理事会
18.7.1	定例役員会	18.11.25	定例役員会
18.7.19	理事会	19.2.10	42期生卒業式
18.9.10	白陵運動会		

支出の部	予算額	決算額	差異
事務費支出	96,000	56,735	39,265
消耗品費	20,000	0	20,000
印刷費	20,000	0	20,000
通信費	50,000	26,580	23,420
支払手数料	1,000	30,155	△29,155
雑費	5,000	0	5,000
会議費支出	450,000	305,909	144,091
理事会費	150,000	162,720	△12,720
役員会費	200,000	143,189	56,811
委員会費	100,000	0	100,000
事業費支出	1,460,000	1,336,549	123,451
総会費	0	0	0
名簿発行費	0	0	0
会報発行費	750,000	739,555	10,445
ホームページ作成費	210,000	210,000	0
卒業記念品費	350,000	285,348	64,652
慶弔費	150,000	101,646	48,354
備品費支出	0	0	0
OB会活動助成金	150,000	120,000	30,000
渉外費支出	50,000	0	50,000
予備費支出	500,000	0	500,000
小計	2,706,000	1,819,193	886,807
総会積立金	200,000	200,000	0
次年度繰越金	14,415,936	20,814,998	△6,399,062
合計	17,321,936	22,834,191	△5,512,255

姉妹校岡山白陵創立30周年
 (平成18年11月9日)
 昭和51年に開校し、今や白陵と並んで全国区の進学校として確固たる地位を築いている岡山白陵が昨年盛大に創立30周年を迎えました。11月9日に挙行された「記念式典」の他、岡山シンフォニーホールで開催された大阪府ハイムホールにて交響楽団による「記念演奏会」、東大名誉教授の養老孟司氏を招いての「記念講演会」などの記念行事が催され、記念事業として「校章の碑」と「岡山白陵生の像(陵友)」を建立し、30周年記念誌も発行されました。また、岡山白陵同窓会では、平成18年10月29日、岡山全日空ホテルで開催しました。

10期生同窓会開催
 (平成18年9月16日)
 昭和50年3月卒業の10期生は卒業後30年を経て50歳を迎えたのを機に、吉田達哉氏を中心とした13名の世話人が立ち上がり、初めての本格的な同窓会を姫路キャッスルホテルで開催しました。当日は中安久隆先生、藤田家将先生など9名の恩師と全国各地から約50名の懐かしい顔ぶれが集い、在学中、故園部長先生にしかれた思い出や部活動のけなし合いなど、先生方を囲んで1次会2次会と運くまで懐旧談に花が咲きました。在学中の昭和47年から50年頃と言え、札幌冬季五輪、浅間山壮事、田中首相訪中、巨人軍長島引退が世間を賑わし、吉田拓郎ややくや姫、山口百恵が流行っていた頃です。日頃のストレスを忘れ、高校時代に戻った気持ちで実に楽しい一時を過ごし、帰りに際は互いの健康と次回の再会を約束しました。

- 退職教職員紹介**
 平成19年3月
- 佐藤誠二先生(数学)**
 昭和43年4月、39年間
 - 長井利充先生(英語)**
 昭和45年4月、37年間
 - 加藤紀子先生(国語)**
 平成11年4月、8年間
 - 中野成昭先生(社会)**
 平成18年4月、1年間
 - 堀 祥子先生(英語)**
 平成18年4月、1年間

今春の統一地方選挙当選会員
 4月に行われた統一地方選挙で3名の校友が当選。明石市長選では現職の北口氏が危なげなく再選。兵庫県議選では石井氏が神戸西区選区でトランプで再選。姫路市議選では初陣の萩原氏が姫路選挙区において見事トップ当選しました。

北口寛人氏(19期生)
 兵庫県明石市長(再選)
 石井秀武氏(20期生)
 兵庫県議員
 神戸市西区選出(2期目)
 萩原唯典氏(26期生)
 姫路市市会議員(初当選)

第89回全国高校野球兵庫大会
 2年連続 灘高校に勝利
 白陵 1202205616
 灘 01002003
 シード校に惜敗
 白陵 203010000006
 白陵 0000510000017
 生野 延長11回

編集後記

今号では平成の大普請となった校舎建替を特集しました。新校舎は旧校舎の特徴であった円柱を取り入れた石造りの重厚なデザインで、内部は落ち着いた雰囲気にならなっています。最新の耐震性と機能性に伝説が見事にマッチし、正に名門白陵に相応しい校舎です。これから、毎年この素晴らしい学舎から引き続き有為な人材が輩出していくことでしょう。同窓生各位におかれましてはどうかこの校舎建替資金に係る寄付金募集へのご理解を一段深めていただきまして協力の輪を広げていただきますようお願いいたします。目まぐるしく移り変わる今の時代にあつて、物事の本质を見極め、本質的な問題を解決することができる人材が求められています。この人材の育成に創立当初より真正面から取り組んできたのが母校白陵です。今の我が国において、ペクトルを同じくする70000余名の白陵卒業生が、それぞれ立場で周囲に与える社会的貢献度は計り知れない価値があると思われまふ。校舎建替を機にますます発展する母校にエネルギーを送ると共に、同窓生一同、思いやさを心から願っています。

(広報委員長)

白陵会物故者

五期生 松本智典氏
 平成十九年二月 逝去

六期生 西川龍夫氏
 平成十九年六月 逝去

心よりご冥福をお祈りします。